

広島県立呉昭和高等学校の存続を求める意見書（案）

広島県では、生徒数の減少に伴い県立高等学校の再編整備を進めているが、このたび、広島県立呉昭和高等学校（以下「呉昭和高校」という。）の令和4年度からの生徒募集停止を決定し、今後、廃校に向けた手続を行うことが発表された。

呉昭和高校は、開校以来、多くの卒業生を送り出しており、その卒業生はさまざまな場所で活躍し、呉市に大きく貢献しているところである。

広島県議会への報告では、昭和地区の中学校から進学した生徒の割合は、開校当時から比べて大きく減少しているとあるが、直近では2年連続して定員割れをした事実はなく、また、令和2年度の入学者63名のうち、41名が昭和地区の中学校から進学した生徒となっており、3分の2を占めている。昭和地区の生徒が多く在学する呉昭和高校が生徒募集停止となれば、昭和地区に居住する子供たちは、高等学校へ通学するためには公共交通機関を利用しなければならない、ひいては家計の負担も増大することとなる。通学している生徒の中には、家庭の事情から呉昭和高校を選択している生徒もおり、昭和地区唯一の重要な高等学校となっている。

また、呉昭和高校の生徒は、昭和地区で開催されているさまざまな行事への積極的なボランティア活動を行い、平成30年7月豪雨災害の際にも復旧・復興に貢献し、存続を求める声が多数挙がっている。

この呉昭和高校が廃止されることにより、呉市の子供たちの教育を受ける機会と場が失われることはもちろん、地域の衰退を招くことがあってはならない。また、在校生や周辺地域に大きな影響を及ぼすことが予想されながら、事前に呉昭和高校のPTAや地域に対して説明がないまま、このたびの生徒募集停止が発表されたことは誠に遺憾である。

今後も呉昭和高校は、昭和地区さらには呉市の子供たちにとって必要不可欠な高等学校として存在すべきであり、そして、人材育成や地域の活力を維持する上で重要な高等学校であることは明白であるため、呉昭和高校の存続を強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

呉市議会

（提出先）

広島県知事
広島県教育委員会教育長